

第2章

経済モデル： トレードオフと取引

経済学のモデル:

モデルとは現実を単純化して表現したものであり、現実生活の状況を理解するために用いられる。

モデルの利点:

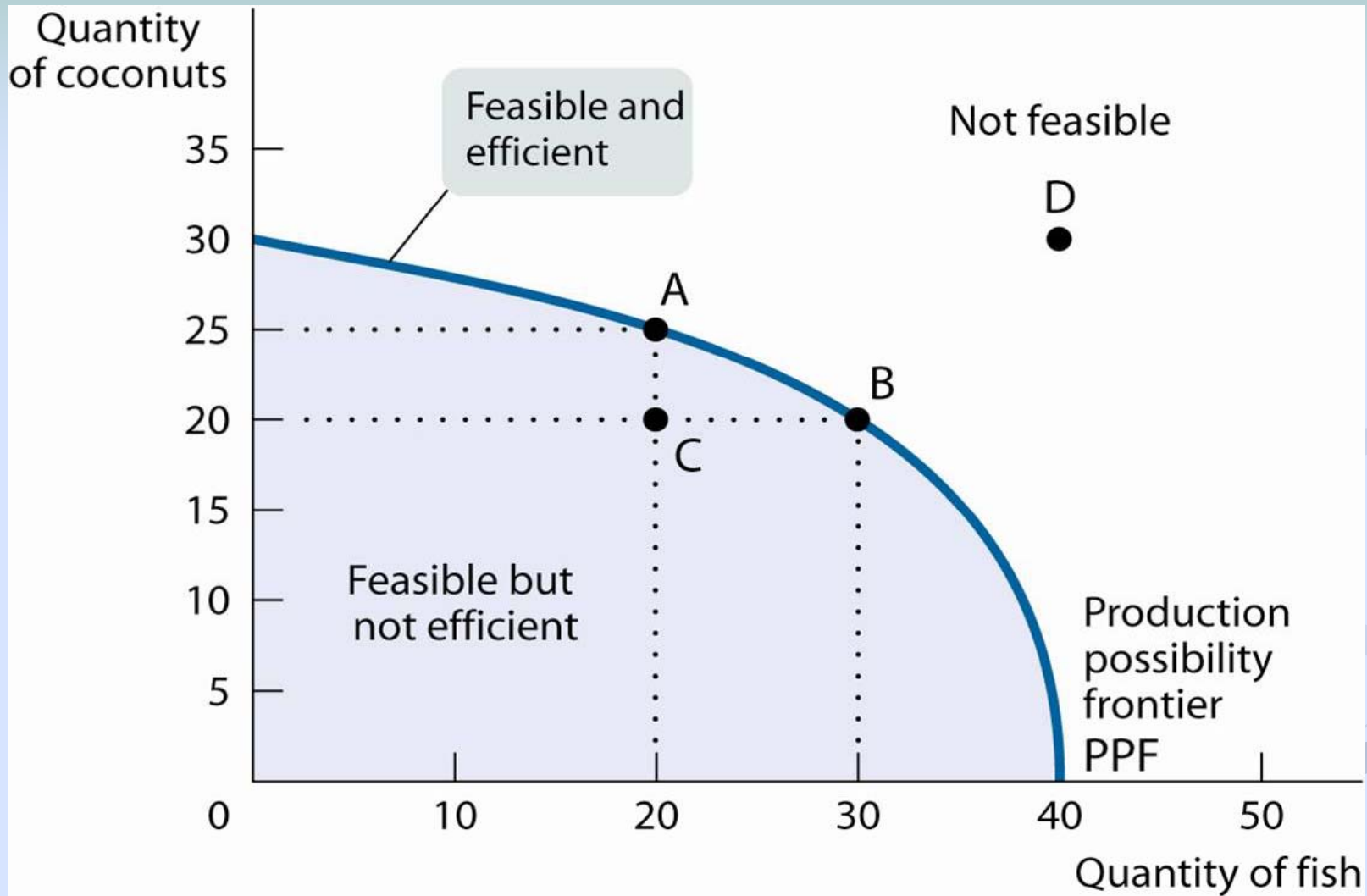
「ほかの条件を一定」として、興味のある1つの変化の効果を調べることができる

モデルの例1: 生産可能性フロンティア (PPF)

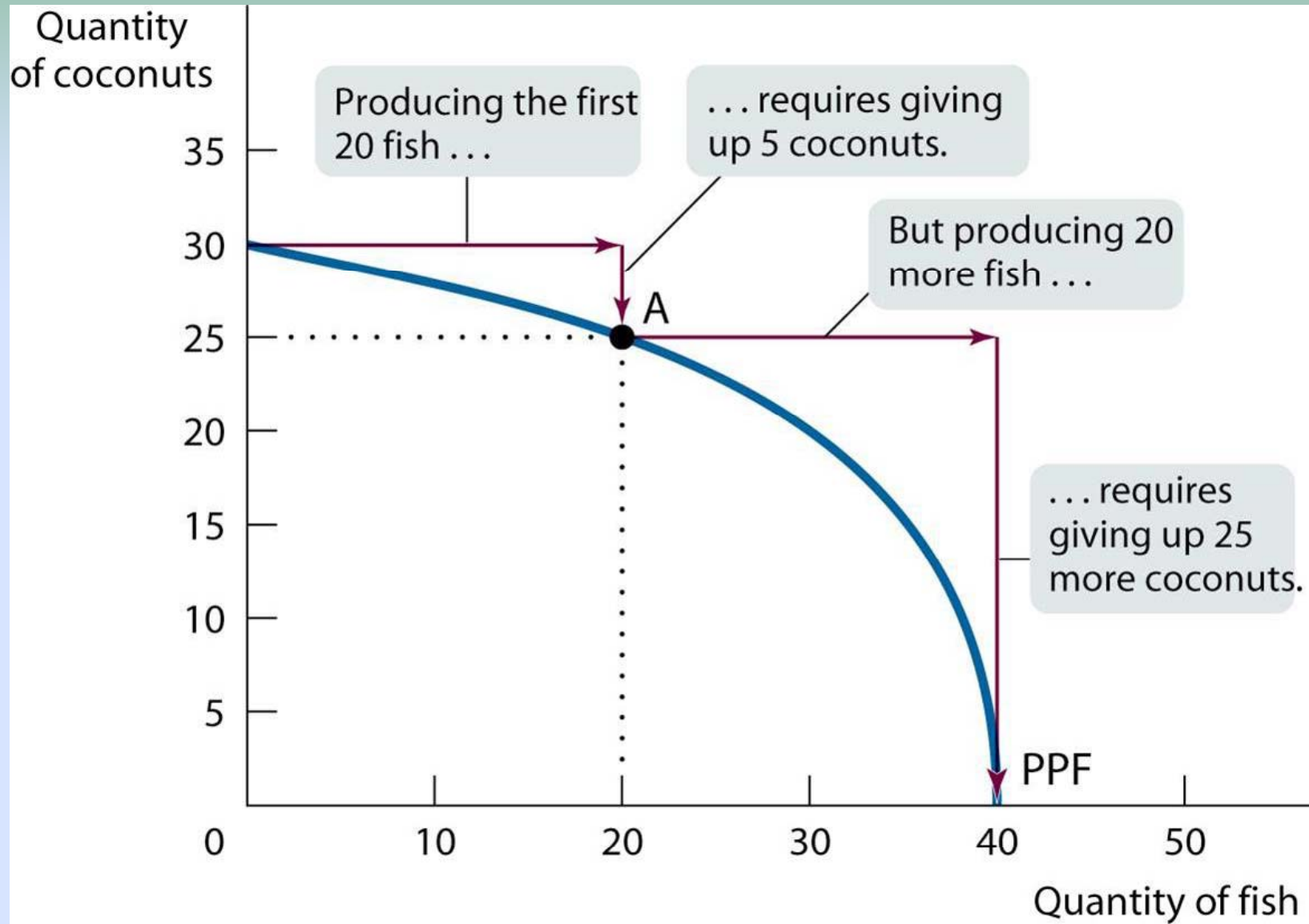
2財を生産する経済が直面するトレードオフを表している。

- 経済にはトム一人しかいない (離島への遭難者)
- トムはココナッツと魚の2財だけを生産する

生産可能性フロンティア： 希少性・トレードオフ・効率性の概念

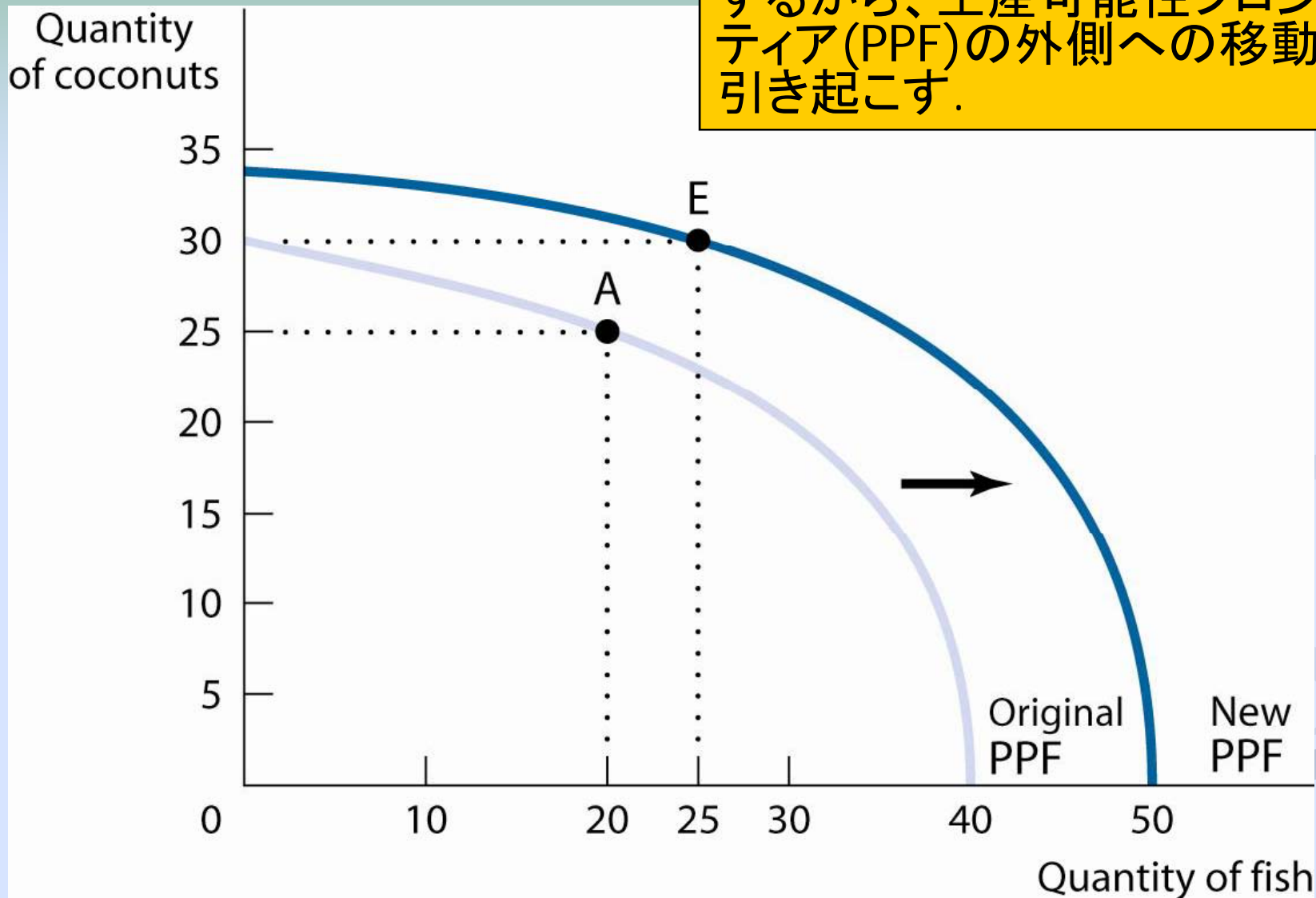


機会費用遞增



経済成長

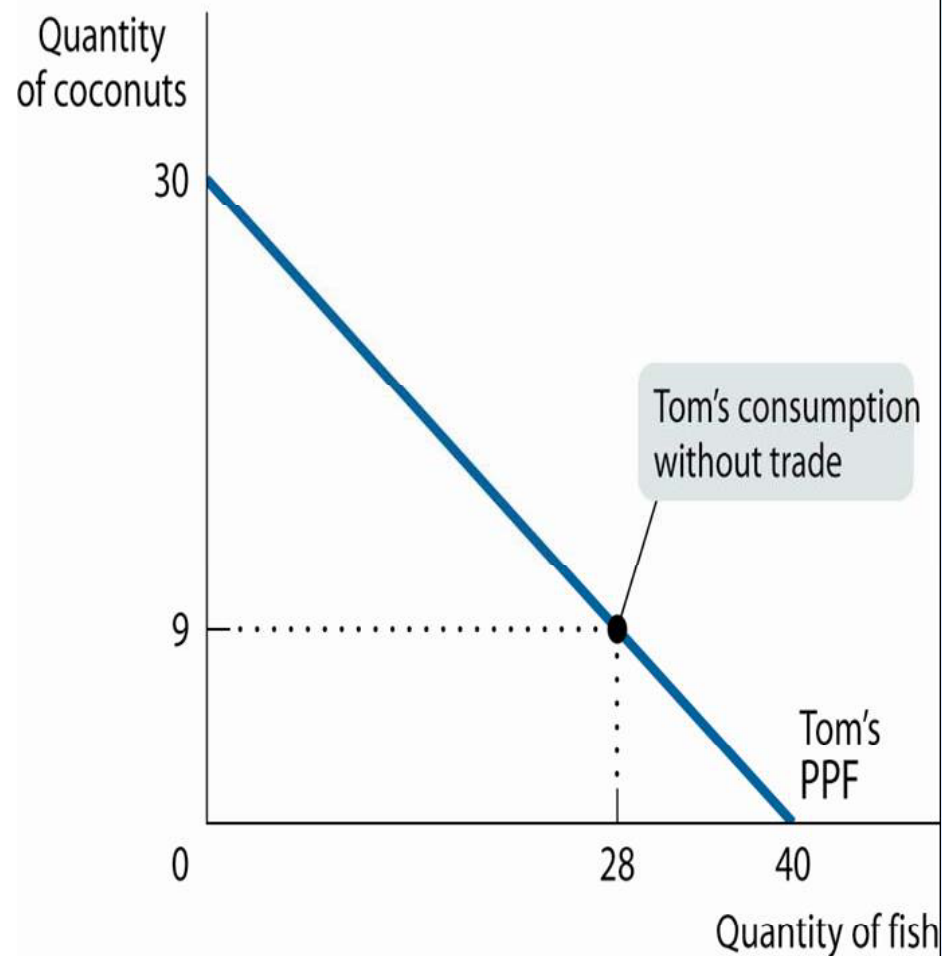
経済成長は生産可能性を拡大するから、生産可能性フロンティア(PPF)の外側への移動を引き起こす。



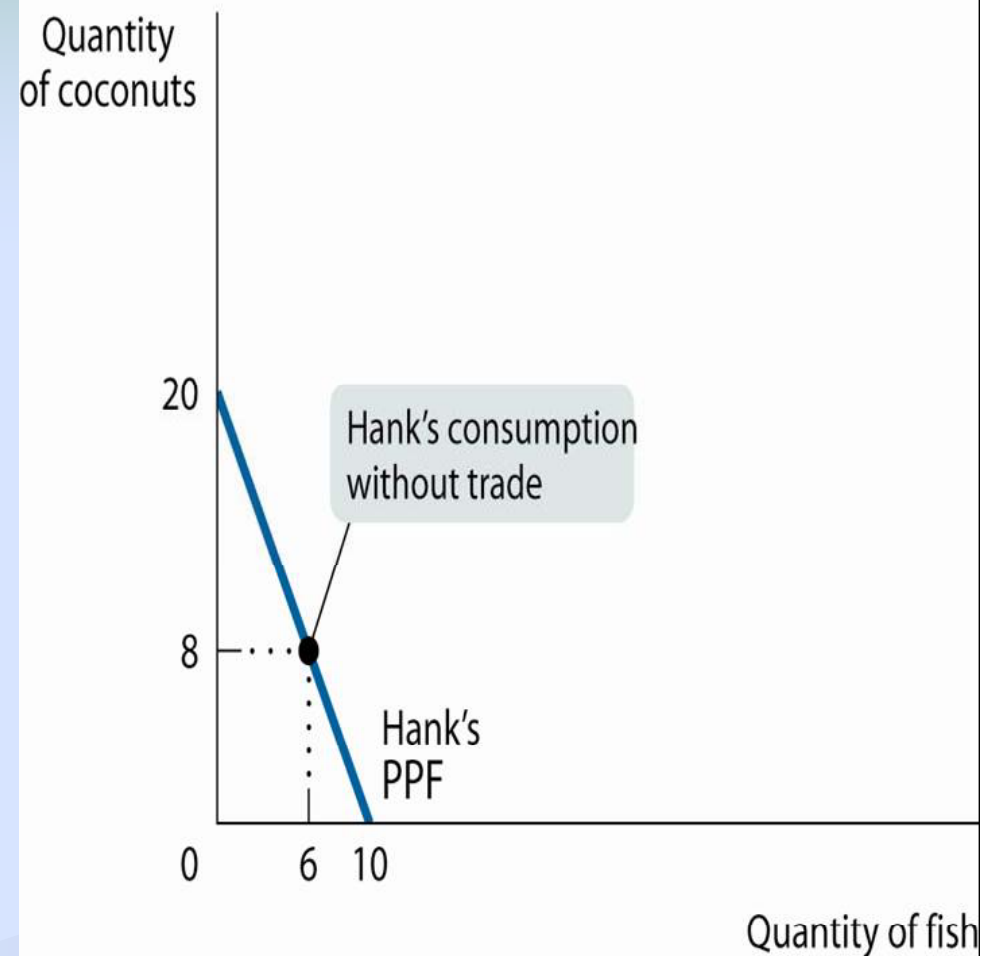
モデルの例2: 比較優位と取引収益

最も簡単な例～二人の経済(トムとハンク)

(a) Tom's Production Possibilities



(b) Hank's Production Possibilities



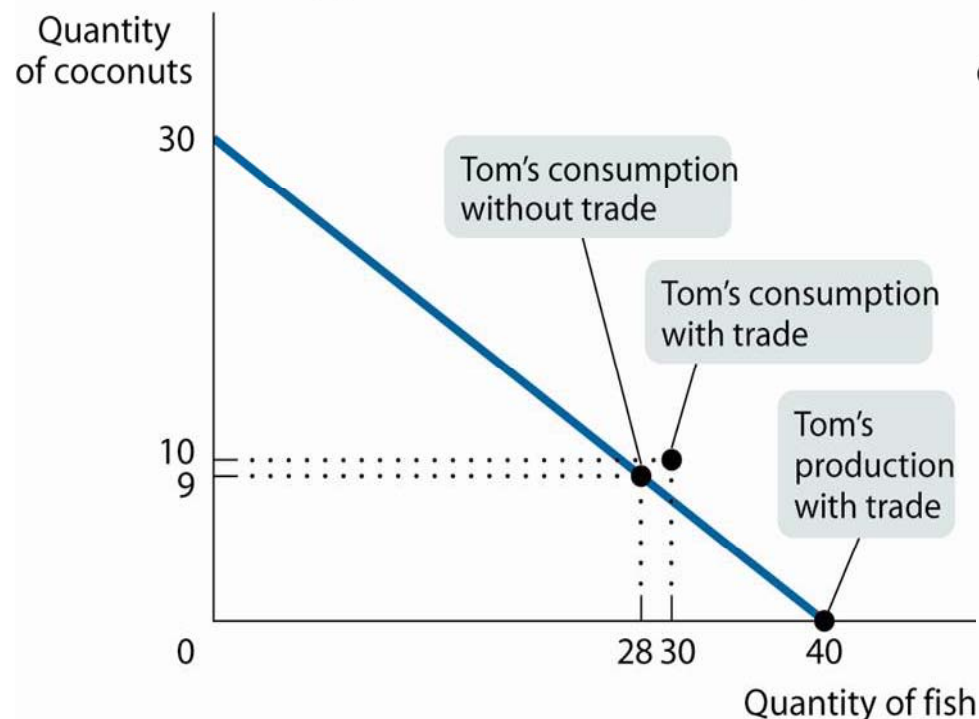
トムとハンクの魚とココナッツの機会費用

	トムの 機会費用	ハンクの 機会費用
魚 1匹	ココナッツ 3/4 個	ココナッツ2個
ココナッ ツ1個	魚4/3匹	魚1/2 匹

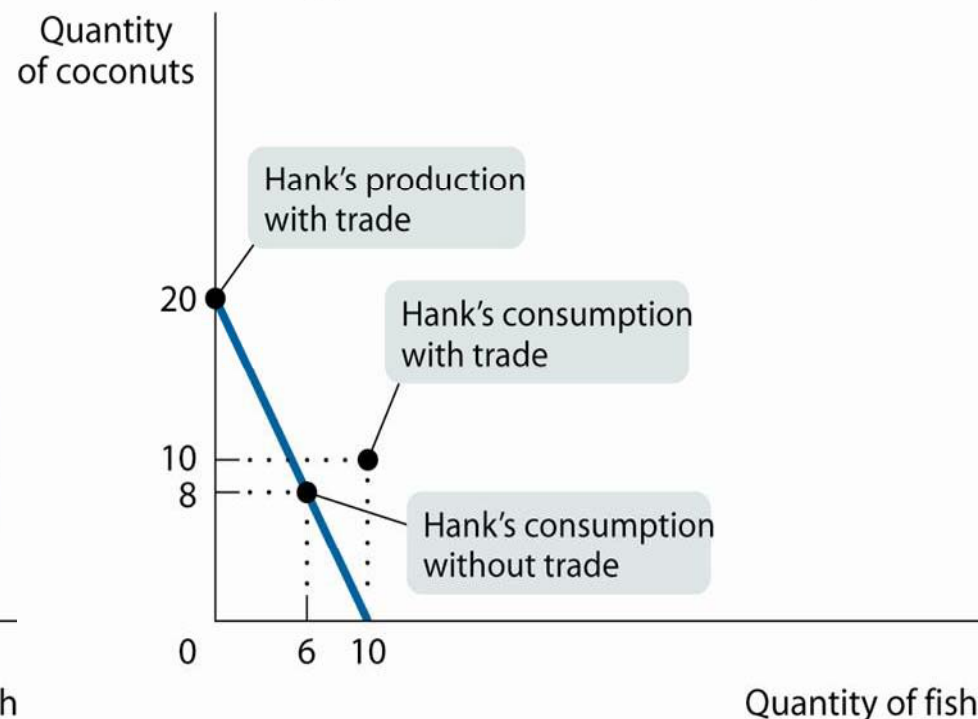
二人の遭難者がそれぞれ自分が相対的に得意とするものに特化すれば、取引することにより豊かになることができる

特化と取引 → 取引利益

(a) Tom's Production and Consumption



(b) Hank's Production and Consumption



		Without Trade		With Trade		Gains from Trade
		Production	Consumption	Production	Consumption	
Tom	Fish	28	28	40	30	+2
	Coconuts	9	9	0	10	+1
Hank	Fish	6	6	0	10	+4
	Coconuts	8	8	20	10	+2

トムは魚釣りに特化、ハンクはココナッツ集めに特化。
ココナッツ10個と魚10個を交換

比較 vs. 絶対優位

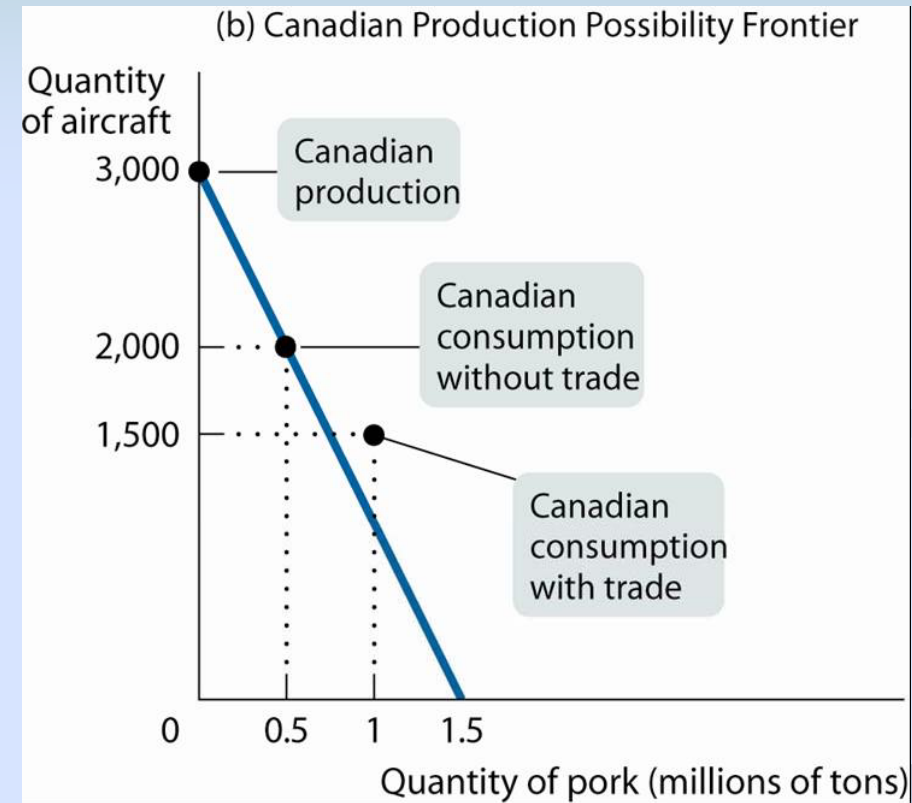
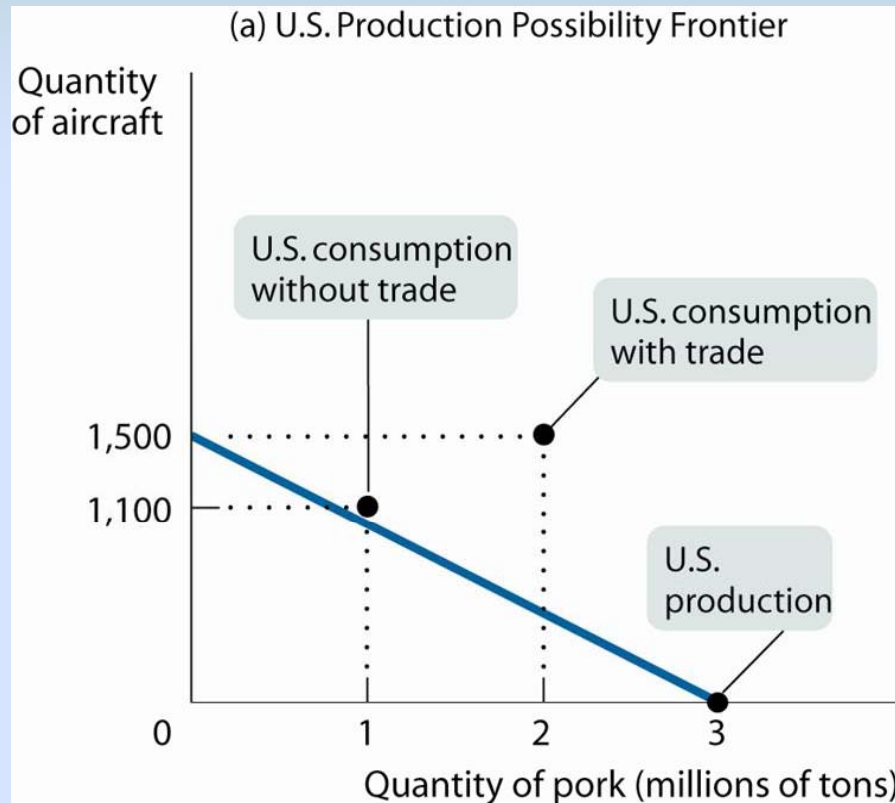
比較優位: ある個人にとって、ある財を生産する機会費用は他人より低いこと.

絶対優位: ある人は他の人よりもあることをうまくやれること.

注意: 比較優位と絶対優位を混同しないでください!

比較優位と国際貿易

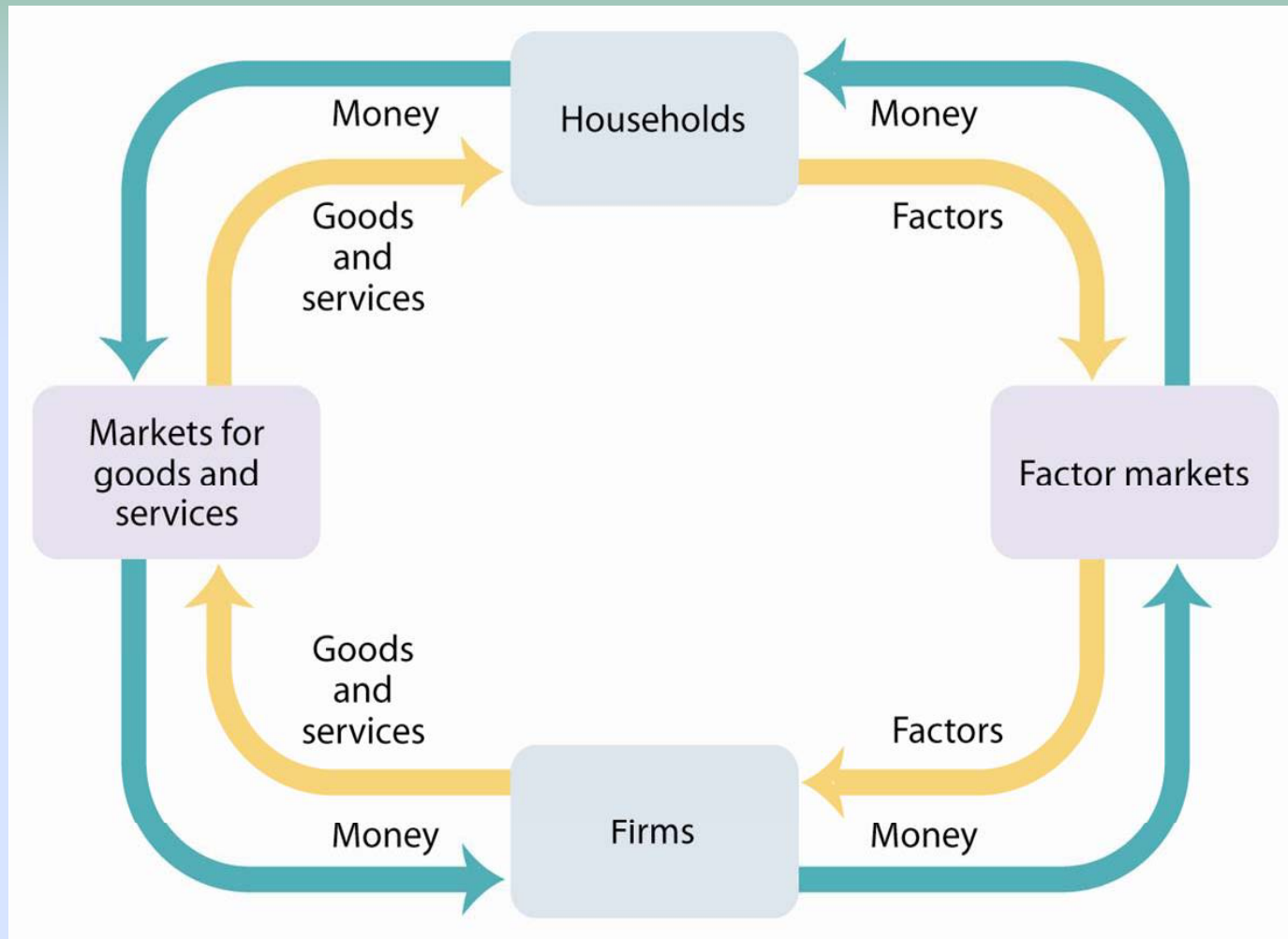
Ex.: アメリカ vs. カナダの経済



アメリカとカナダは貿易から利益が得られる。

モデルの例3:取引と 経済循環フロー図

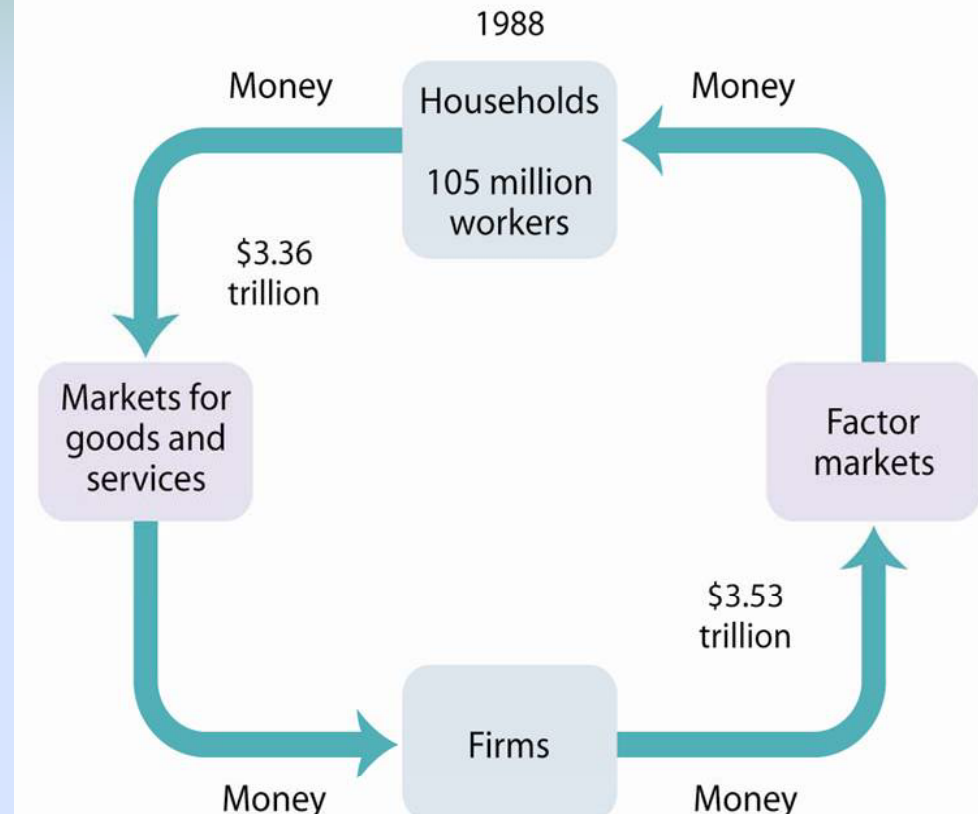
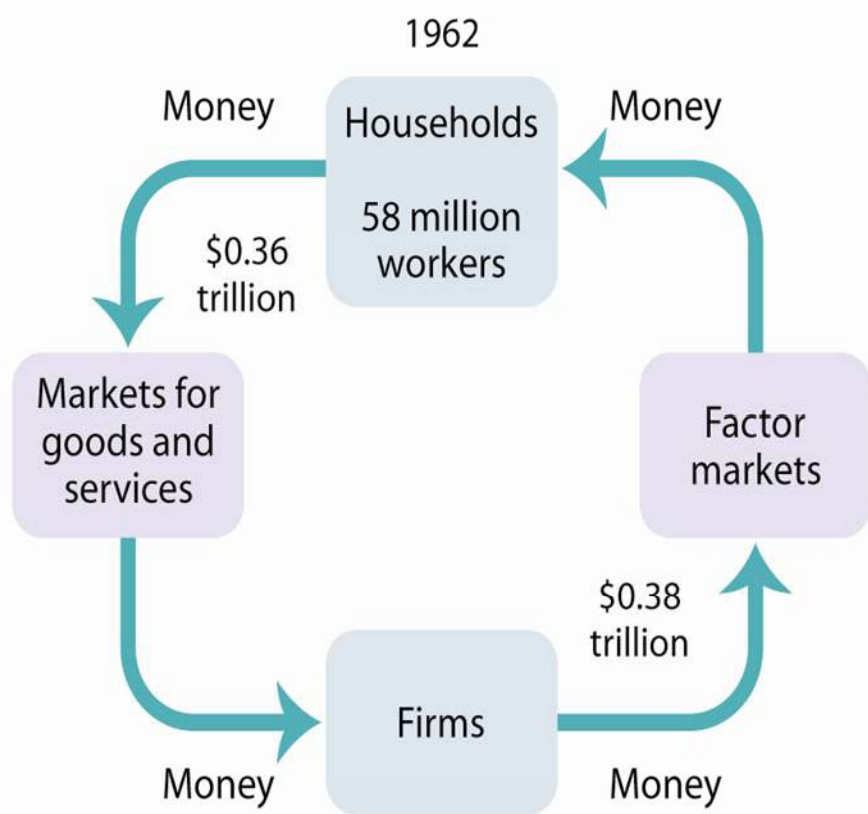
物々交換ではなく、取引には貨幣を用いる。



経済主体： 家計 企業

取引場所： 財・サービス市場 生産要素市場

経済成長を経済循環フローからみると： 1962年と1988年のアメリカ経済



労働者の増加と仕事(求人数)の増加が同時に起こったのはなぜか？

モデルを使う

➤ 解明経済学： 経済は実際にどうなっているか

将来の予測
もし...したらどうなるか

➤ 規範経済学： 経済はどうあるべきか

政策提言

経済学者の様々な意見

多くの問題について、経済学者は意見が一致している

➤ 経済理論に基づいた結果

経済学者の食い違いは主に2つの原因がある:

- モデルを作った時、異なる単純化の仮定
- 価値観の違い

この章のまとめ

経済モデル：現実を単純化した表現

なぜ経済学ではモデルを用いるか？

- 生産可能性フロンティア
- 比較優位
- 経済循環フロー図

解明経済学 VS. 規範経済学

どんな場合に経済学者の意見が一致するのか、
またなぜ時に対立するのか。

第2章は終わり

次回は:
第3章:
供給と需要